

子どもたちの経験を

「ことばの力」に生かす

新しい指導を考える会

1 はじめに

入学したばかりの一年生は、新しい友達と出会い、新しい経験をしながら毎日を活発に過ごしている。何をすることも意欲的であり、だれもが「やりたい」「できるようにになりたい」と思っている。教師もその気持ちに答え、力をつけてやらなければならない。

児童は、一人ひとり経験してきたことも違い、また語彙量にも大きな差が見られる。そこで、子どもたちの活動の中から言葉を広げたり、絵や文字で表現したりしながら知識を共有のものとし、クラス全体の「ことばの力」を高めていきたい。

2 実践

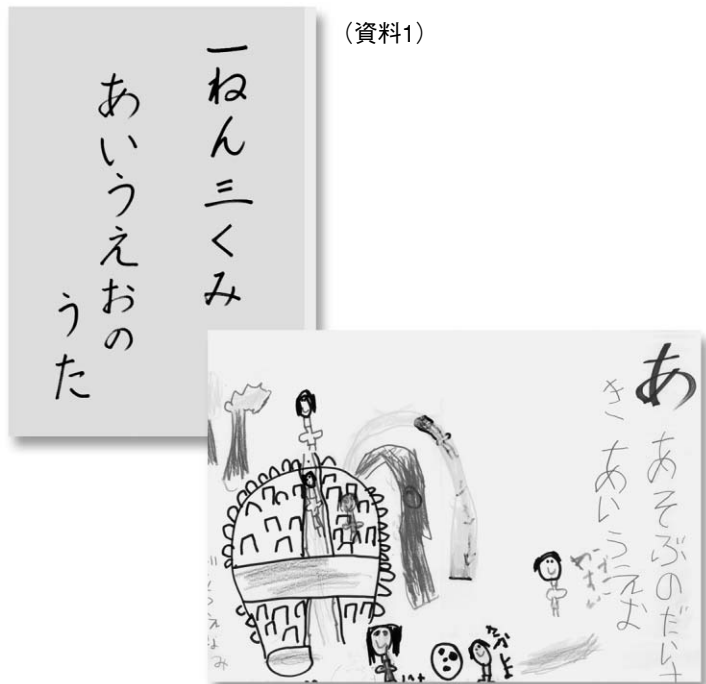
(1) 「うたに あわせて あいうえお」

「一ねん〇くみ あいうえお」作り

○単元の目標

・声に出して楽しく読み、「あいうえお」に親しむ。

表現させる。文字の学習はまだ始めたばかりなので、絵を中心として表現させ、文字は教師が手伝うとよい。一人一枚大きめの画用紙に書き、それを貼り合わせると、クラスのオリジナルの本が出来あがる。学級文庫に入れておくと、子どもたちは興味をもって読んでいる。(資料1)



(資料1)

・自分たちの学校生活を振り返り「あいうえお」にあてはめて、ことば遊びを楽しむ。

○単元の流れ (3時間)

・いろいろな読み方で音読する……(1) 帯時間
・いろいろな「あいうえお」の詩を読む……(1)
・「一ねん〇くみ あいうえお」を作る……(1)

○主な活動

①音読

「全員で、グループで、男女に分かれて、一人一行ずつ、声の大きさを変えて、手拍子を入れて……」などいろいろなバリエーションで音読をし、声に出して読むことを楽しむ。この場合の一時間は、まとめて行うのではなく、10〜15分を朝の会や国語の時間の始めに帯時間として設けるとよい。

②いろいろな詩

教科書p12〜15の「うたに あわせて あいうえお」のほかにも「あいうえお」を使った作品は、たくさんある。「あいうえおうさま」(寺村輝夫/理論社)「あいうえおばけだぞ」(五味太郎/絵本館)「あいうえおのうた」など、いろいろな「あいうえお」の詩にふれることで「あいうえお」(五十音)を身近に感じ、ことばのリズムやことば遊びの楽しさを味わわたい。

③「一ねん〇くみ あいうえお」

入学してから経験してきたことをみんなで出し合い、五十音にあてはめてみる。その際、同じことばを選ぶ子がいなくても気にせず自分の好きなひらがなを選び、楽しい経験を絵とことばで

(2) 文字・ことばの獲得

出会いを大切に

○目標

・筆順や形に気をつけて、ひらがなを正しく覚える。
・覚えた文字から「ことば見つけ」をし、語彙を広げる。

○主な活動

①文字遊び

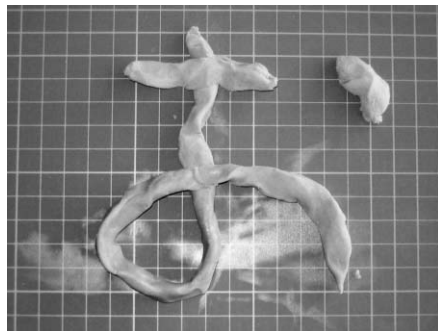
初めて出会うひらがなの学習は、ノートや画用紙を使い、一文字だけゆつくり大きく書かせたい。クレヨンやカラーペン・色鉛筆などを使って文字に洋服を着せるように何重にも書き重ねながら、「はね・はらい・おれ」などに気づかせていく。

(資料2)



(資料2)

その文字に関係のある「ことば見つけ」をして絵で表現したり、粘土をへびのように細くのばして、大きな粘土文字を作ったりする。(資料3) 子どもたちは、活動を通して文字の形にも気をつけながら、語彙を広げていくことができる。



(資料3)

② ことば見つけ

「かくれことば見つけ」

一年生の教室には、必ず大きな五十音表がある。ひらがなの学習が始まるまでは、すべての文字を付箋紙などで一文字ずつ隠しておく。そして、ひらがなを一つ学習するごとに一枚ずつはがしていくと、習った文字とそうでない文字が全員に一目でわかるようになる。

ひらがなを六〜八文字くらい学習したところで、ことばの入れ替えをして「かくれことば見つけ」をすると、とても喜んで

取り組む。自分の経験の中から一人ひとりが知恵を絞ってことばを探そうになる。知らないことばも友達の話聞いてすぐに取り入れ、クラスの中に「ことば」が広がっていく。一文字習うごとに「ことば」は、どんどん増えていく。その際、始めに紹介した五十音表が大活躍である。

私のクラスでは「お・は・よ・う・い・ち・ね・ん」の八文字から(はち、はね、うち、いち、ちち、はは、よねん、いちば、おちば、いちよう、ようよう、ちようちよ、はい、うん、おい、ねよう、ちようちん)の十七個のかくれことばを見つけて出した。さらに、「え」を習えば『ようちえん』ができるのになあ。」という次への意欲につながる声も聞こえてきた。

③ 「クラスカラーから」

一年生では、クラスの色(クラスカラー)が、決まっていることが多い。一組が赤、二組が黄色…というように、名札や教室の飾りをその色で統一している。ひらがなを習い始めて「ことば探し」をすると、色を表すことばを見つけた子が必ずいる。それをきっかけに、クラスカラーを使ってノート作りをすることもしる。ノートは見開きページで使い、赤色のクラスは、右側のページにカラーペンや色鉛筆の赤で「あか」という文字を何回も練習する。そうするとノートは、たちまち真っ赤な文字でいっぱいになる。左半分は、「あかいものあつめ」をする。りんご・名札・おひさま…のように赤いものの絵でいっぱいになる。子どもたちは、一生懸命に赤いものを探して友達とかかわりながら教え合って、「ことば」を広げていく。自分のクラスだけでなく、他のクラスカラーも同様に学習していくとよい。(資料4)



(資料4)



3 おわりに

「正しく文字を書くこと、ことばをたくさん指導すること」は、大切である。しかし、一年生にとっては、それをどのように学習していくのが重要である。ノートやプリントに習った文字をひたすら書いていくのでは、マンネリ化してしまい、子どもたちも苦痛になってしまう。絵に描いたり、作ったり、知恵を出し合ったりして、一人ひとりの体験や経験を十分生かしながら意欲を育てる指導に努めたい。